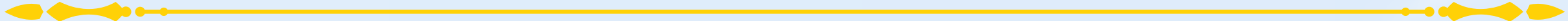


現物取引利用者の方に向けた新サービス！

低リスクで信用取引をスタートして、選択肢を増やせる！

ライト信用



目次



● ライト信用の概要とコスト

● トレンドごとの現物・ライト信用使い分け

● 保有期間・目的に応じた使い分け

● ライト信用の仕組みとリスク管理



ライト信用とは？

通常の信用取引よりも低リスクで、
お手軽に始められる信用取引の新サービス

下落相場でも
利益を狙える！

同銘柄を
何度も取引可能

レバレッジ
1倍

保有株
投資信託を
担保にできる



ライト信用

どんな人におすすめ？

新規注文は
自己資金の範囲に限定

申し込みに
投資経験は不要 (※)

信用取引はやったことないし、リスクが怖い・・・
でも
気軽に信用取引を試してみたい！という方に！

(※) 信用取引の仕組みや信用取引の固有のリスク等を理解し、ご自身の判断で取引できる最低限の知識をお持ちであることを条件とします。



当社の信用取引は低コスト！

取引手数料・・・ **0 円**

制度買方金利・・・ **2.30%** ※年率

一般買方金利・・・ **2.75%** ※年率

貸株料・・・ **1.10%** ※年率

※その他お取引の区分や保有期間によって「信用取引管理料」や「名義書換料」などが発生いたします。

信用取引における手数料・諸経費は当社ホームページをご確認ください。

※2026年9月1日時点

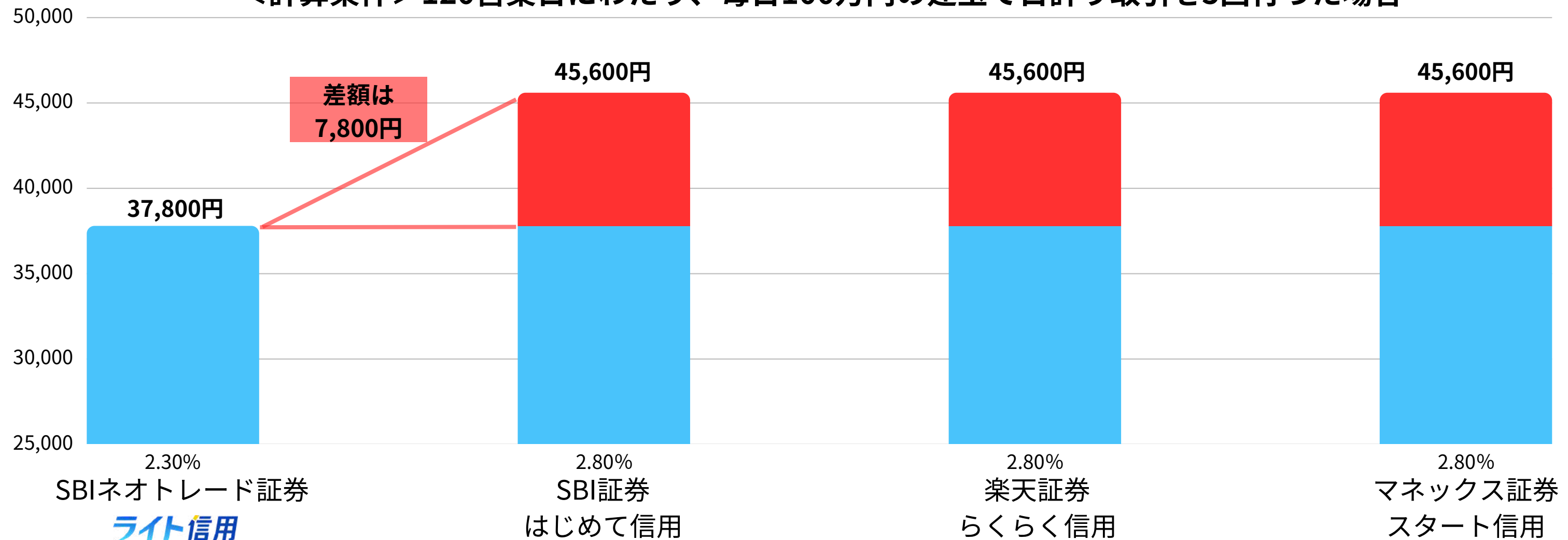


当社のライト信用も低コスト！

～制度信用取引の買方金利※を比較！～

※買建玉の約定代金総額に対して毎日発生する諸経費

＜計算条件＞120営業日にわたり、毎日100万円の建玉で日計り取引を5回行った場合



※金利計算は日計りで取引した際の金利（100万円×買方金利÷365日）の小数点以下を切り捨てた後に、計算条件である5(回)と120(日)を乗じています。）

※当社と比較を行う対象は、類似サービスを提供している主要ネット証券3社となります。

※主要ネット証券とは、ネットでの売買を主とする証券会社の内、売買代金上位のSBI証券、楽天証券、マネックス証券（順不同）を指します。（2026年9月1日 当社調べ）

※金利は、2026年9月1日時点当社調べのものです。※各金利、貸株料の値はすべて年率の表記です。

※各社の大口取引優遇や期間限定のキャンペーン等は条件が異なる為、掲載しておりません。





急変動する相場に負けない！

トレンドごとの**現物**/**ライト信用**の使い分け



現物投資家の悩み①

株価が上昇している場合

企業の成長や配当、株主優待をじっくりと狙いに行く

株価が下落している場合

- ① 売却する ⇒ 長期保有目的の株を手放したくない…
株主優待の条件に保有期間がある…
- ② 塩漬けにする ⇒ その間資金を動かさない…



そんな時に、**ライト信用** の空売り！

【空売りとは？】

売りから取引を始めることができる！（空売り）



POINT

利益追求だけでなく、リスク管理としても活用できる！

長期で値上がり予想だが、一時的に市場全体が値下がりしそう・・・

株主優待は長期保有の条件があるから売却はできない・・・

”つなぎ売り”でリスクを軽減！



保有株式が下落した時の「つなぎ売り」



業績が良かったため長期保有目的で株式を保有したものの、日経平均の影響で一時的に下落していると選択肢がない...



ライト信用の空売りで株価の下落分を利益に！
＝空売りを攻めに利用するのではなく、
現物株式を守るために活用

【例】(2702)マクドナルドHDを長期保有目的に保有
その後上昇したが、最高値(8,780円)から一時的に約20%の下落

- ※ 空売りは、配当落調整金・逆日歩の支払いが発生する可能性があります。
- ※ 空売りは株価の上限がないため、手元資金以上の損失が発生する場合がございます。
- ※ 表示している銘柄は、説明のための例示です。取引を推奨するものではありません。





注意事項



- 同銘柄の現物株式と空売り(売建玉)保有した後に、予想に反して株価が上昇した場合、現物株のポジションの含み益は増えますが、信用取引の売り建ては損失となります。この状態で信用取引の反対売買を行うと損失分＋諸経費の支払いが必要になります。なお、保有する現物株を引き渡して決済した場合（現渡し）には(売建値×株数)から諸経費を差引いた現金を受取ります。
- 制度信用取引で売建てた場合、借りる株に対して貸株料が発生します。金利と同様に日数に応じて発生しますが、金利と異なり市況状況によっては逆日歩（品貸料）と呼ばれる費用が追加で発生する場合があります。
- 売建玉を保有したまま権利付最終日をまたいだ場合、配当落調整金を支払う必要があります。
- すべての銘柄で信用取引の売建てができるわけではありません。

【逆日歩（品貸料）】

新規建受渡日から返済受渡日の前日まで（片端入れ）、日毎の品貸料率（円/1株あたり）を建株数に応じて計上します。

逆日歩の値段は取引翌営業日のお昼頃に行われる入札によって決定します。

※逆日歩の受払いは、制度信用のみで行われます

※株主優待の権利付最終日近くなど、株式が不足しやすい場合は、逆日歩が高額になる場合もございますので、売建をされる場合はご注意ください。



下降トレンドで利益を狙う！



【現物取引の場合】

値上がりに転じるまで待つ🕒

【信用取引の場合】

下降トレンドなど、株価が下落すると予想した場合などに、
利益を追求するための空売りとして活用！🌟

- ※ 空売りは、配当落調整金・逆日歩の支払いが発生する可能性があります。
- ※ 空売りは株価の上限がないため、手元資金以上の損失が発生する場合がございます。
- ※ 表示している銘柄は、説明のための例示です。取引を推奨するものではありません。



現物取引/信用取引 活用方法まとめ

株価の上昇局面

長期保有目的で保有している
株式の評価額上昇

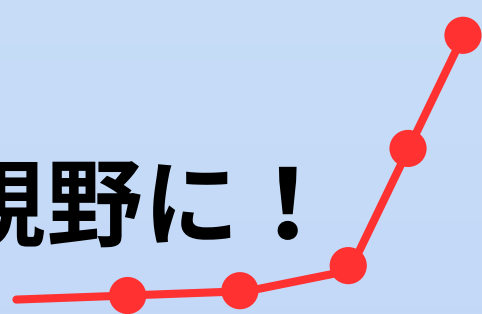


今後さらに値上がりしそうな銘柄が！
だけど他の現物を買付けしたから現物の余力がない・・・
⇒現物株式を担保に信用取引で買いを保有することも可能！



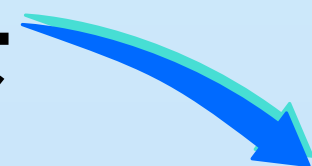
後ほどご説明！

基本的には**現物**取引で、
長期目線で利益を狙う！
一時的な上昇では信用取引も視野に！



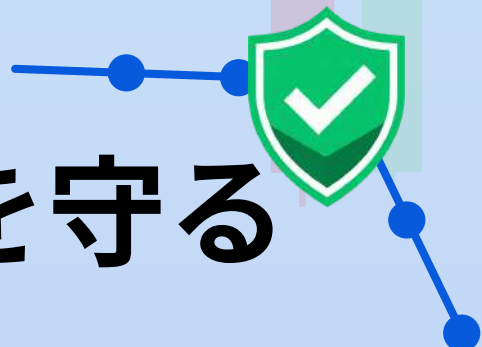
株価の下落局面

長期保有目的で保有している
株式の評価額低下



「空売り」を活用して、
保有株式の評価額低下を空売りの利益で相殺！

「空売り」で
利益を狙うor保有株を守る



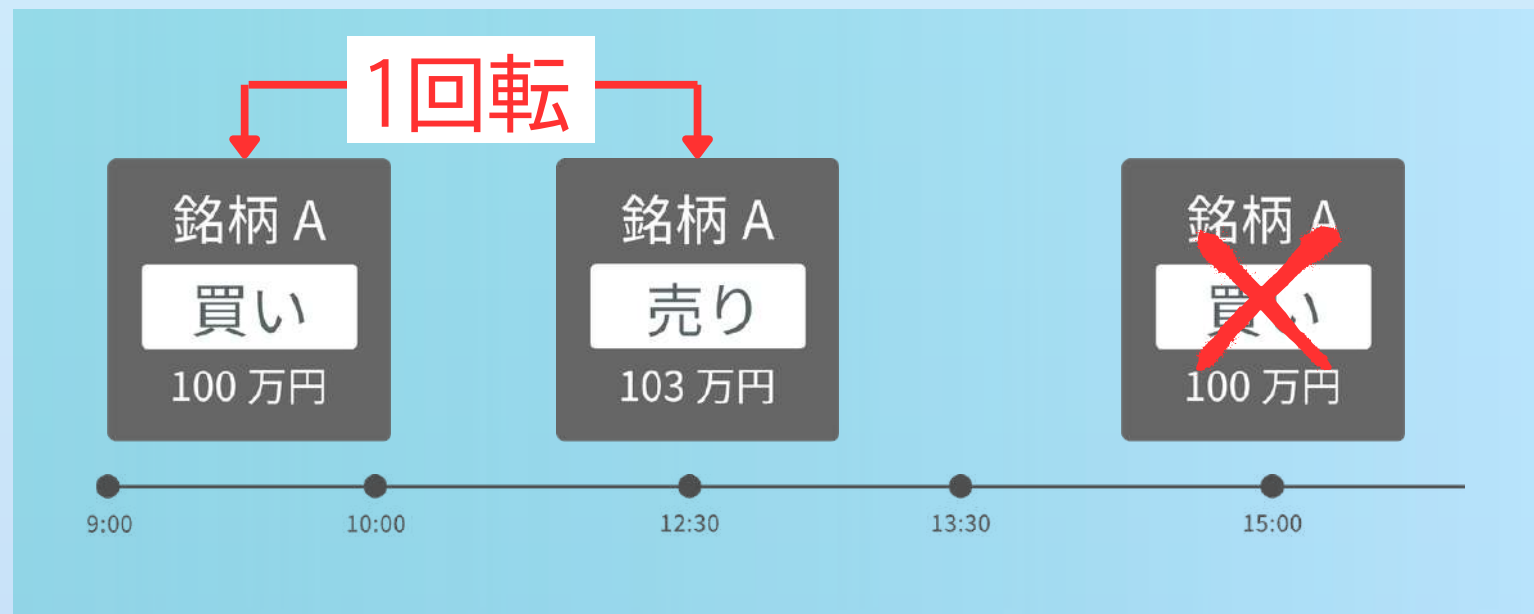


保有期間と目的で切り替える！
『長期目線の現物』と『短期のライト信用』



現物投資家の悩み②

差金決済取引の禁止



現物取引の場合、
同一日に同一銘柄を同一資金で
「買付⇒売却⇒買付」もしくは
「売却⇒買付⇒売却」を行うことはできません。

絶好のチャンスが一日に何回もあった場合でも次の日まで待つしかない・・・

複数回の売買チャンス



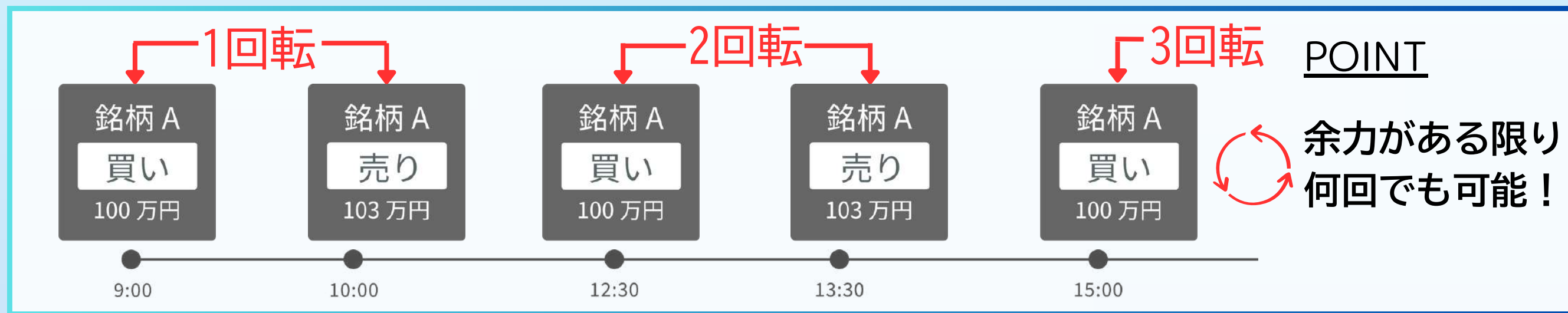
1カ月に一回



12回のチャンスを喪失



ライト信用 だったら何度でも！！



空売りもできるため、相場の方方向感に合わせて柔軟に利益を狙える！

当社でリスク管理の観点から過度な取引であると判断した場合、お客様へのヒアリングや取引の制限を行う場合がありますのでご注意ください。

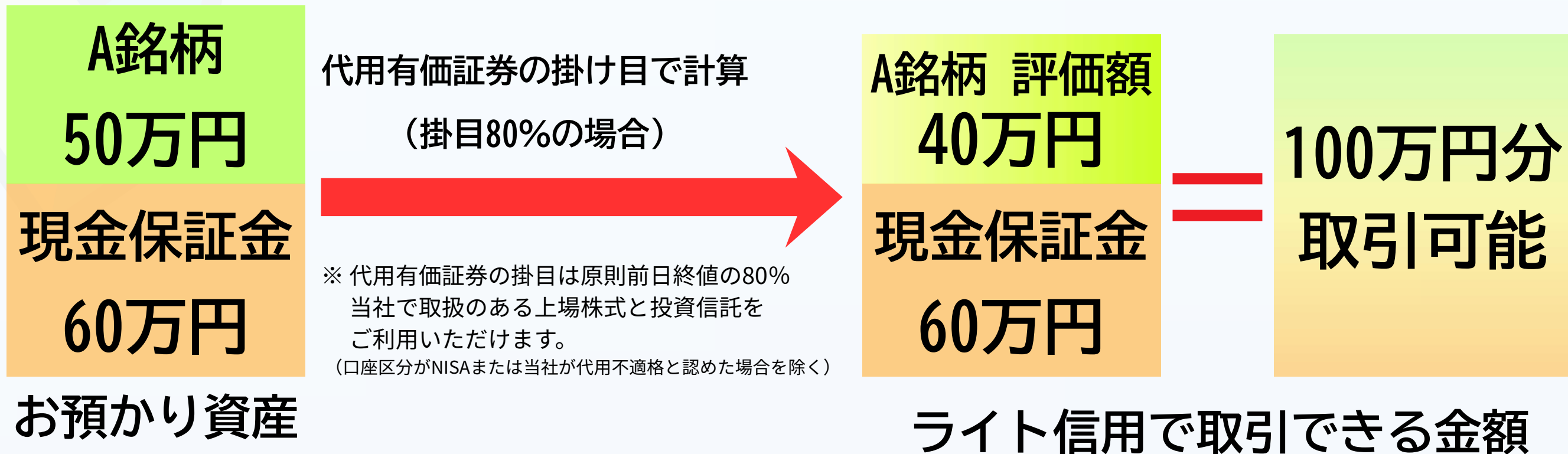


保有株式を担保に取引可能！

現物取引

買付できるのは、口座内にある金銭残高（現金）の範囲内に限る

ライト信用 保有している現物株式を担保に取引可能！



現物株式で保有している銘柄と同じ銘柄で信用取引の買い建てを行う「二階建て」をした場合、銘柄の価格が上昇した時は、現物株式の評価が上がるほか、保有している信用取引の建玉の利益も上がり、利幅が大きくなりますが、逆に株価が下落した場合は、保有している株式の評価が下がることにより保証金預託率が低下するほか、建玉の評価損も生じるため、追証が発生しやすくなるばかりでなく、損失額も拡大してしまうためご注意ください。
※当社では「二階建て」を一律禁止とはしていませんが、リスク管理の観点からお客様へのヒアリングや個別銘柄毎の規制を行う場合があります。



取引スタイルに応じた活用方法まとめ

長期的に上昇すると予想

現物株式で保有して
値上がりするまで保有する

一時的に下落しそう・・・

⇒「空売り」を利用して保有株を守る等を検討

⇒現物株式を保有し続けて、
短期的な下落時には空売りを活用

短期的に売買して利益を狙う場合

現物取引の場合は、
同一日・同一銘柄・同一資金の取引は1回のみ・・・



余力がある限り何度でも売買できる
「ライト信用」を活用して利益を狙う！

※「価格変動リスク」をはじめ、様々なリスクが高まる取引となりますので十分にご注意ください。

※リスク管理の観点から過度な売買と当社が判断した場合、

お客様へのヒアリングや取引の制限を行う場合があります。

※お取引1回ごとに1日分の信用取引金利・貸株料がかかります。

その他のリスクや注意事項は当社ホームページをご確認ください。

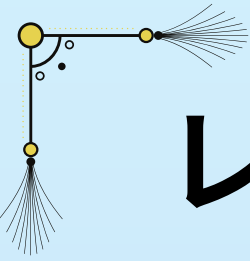




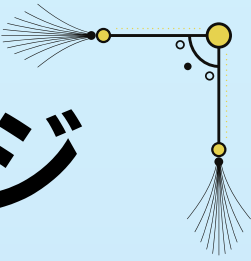
リスクを正しくコントロールする！ ライト信用の仕組みとスムーズな始め方



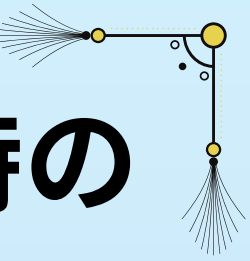
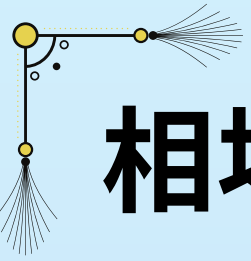
信用取引はハードルが高い…？



レバレッジ
約3.3倍



相場変動時の
リスク管理



ルールが複雑



ライト信用で低リスクな信用取引を！

レバレッジ**1倍** 新規注文時は**手持ち資金の範囲内**での取引に限定

さらに！ 株式の投資経験がなくてもお申込み可能！

※信用取引の仕組みや信用取引の固有のリスク等を理解し、ご自身の判断で取引できる最低限の知識をお持ちであることが条件

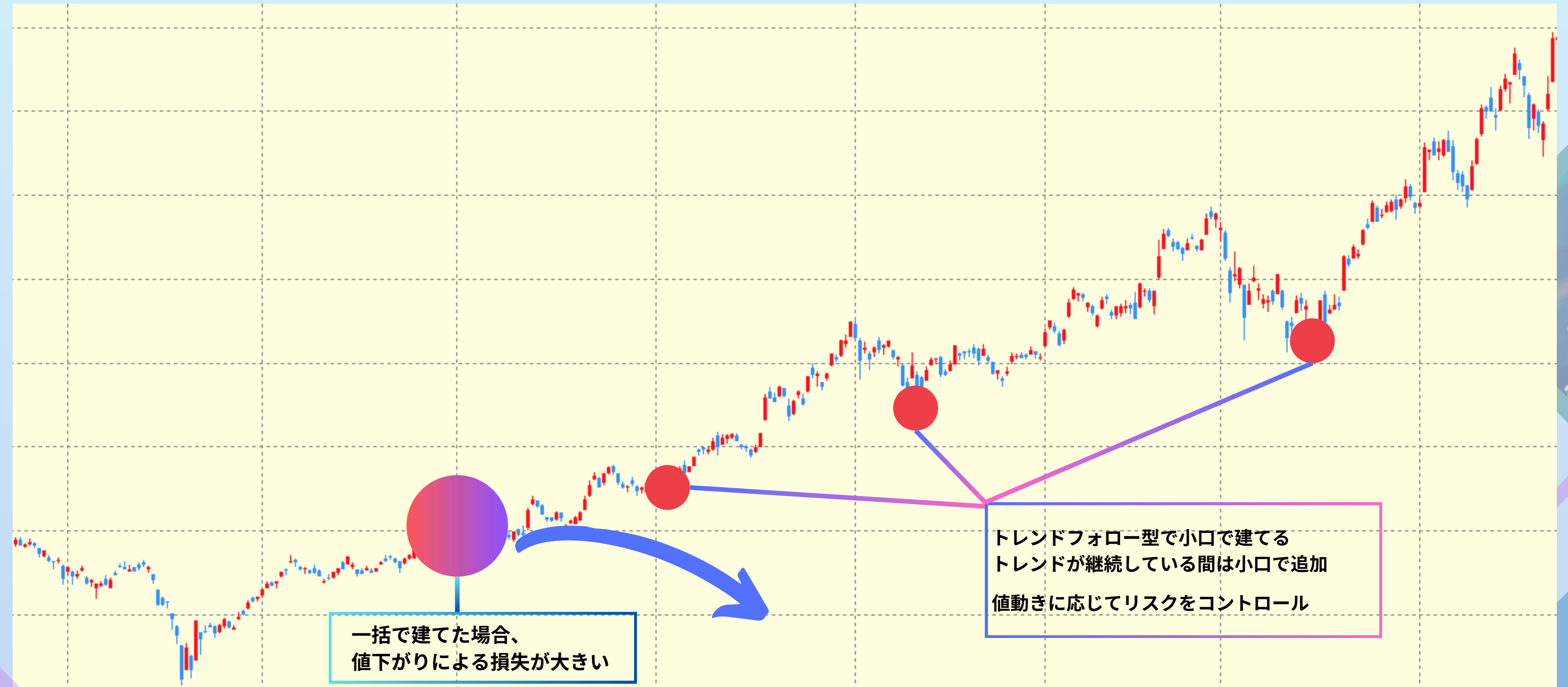
※空売りは株価の上限がないため、手元資金以上の損失が発生する場合がございます

※信用取引口座・ライト信用口座の開設は別途審査が必要です。



信用取引のリスク管理例①

分散エントリーで価格変動を平準化



※当ご案内は取引の一例です。最終的な投資判断はお客様ご自身で決定してください。



Copyright © 2026 SBI Neotrade Securities Co., Ltd. All Rights Reserved.

信用取引のリスク管理例②

ロスカット(損切り)ルールを決める

★なぜルール決めが必要か

- ・「一時的な下落だからまたいつか上がる」という希望的観測を排除できる
- ・相場の急変にも左右されない取引マインドが持てる

ロスカット基準の決定例

%（割合）で設定

例：購入価格の10%下落でロスカット。
1000円で買った株が900円になったら売却。

固定額で設定

例：5万円の損失でロスカット。
保有銘柄の合計損失が5万円に達したら売却。

テクニカル指標で設定

例：移動平均線を下回ったらロスカット。
一定のテクニカル条件を満たしたら売却。

※当ご案内は取引の一例です。最終的な投資判断はお客様ご自身で決定してください。



現物取引・信用取引との違い

	現物取引	おすすめ！ ライト信用	信用取引
投資経験	株式の経験なしでも可	株式の経験なしでも可	申込みには株式の経験が必要
手数料	約定代金に応じて発生	0円	0円
金利	—	制度信用：買方2.30%、売方1.10% 一般信用：買方2.75%、売方は扱い無し	制度信用：買方2.30%、売方1.10% 一般信用：買方2.75%、売方は扱い無し
建玉上限	—	500万円	20億円
レバレッジ(倍率)	1倍	1倍	約3.3倍
取引開始	買いのみ	買い・売り	買い・売り
1日の取引回数 (同一資金)	一回転のみ	制限なし	制限なし

ライト信用で経験を積んで、信用取引に**ステップアップ**も可能！※

※信用取引口座の開設は別途審査が必要です。

※2026年9月1日現在



ライト信用の申し込み方法

①NEOTRADE W にログイン

株式 ログイン

ログインID:

パスワード: [簡易キーボードを使う](#)

注文時の取引パスワード入力の省略設定
☒ 省略しない ☐ 省略する

※初めてログインされる場合は、省略しないをご選択ください

ログイン

※初回ログイン時のパスワード設定は、以下のボタンから行ってください。
※パスワードをお忘れの場合も、以下のボタンから再設定ください

パスワード設定

②「信用取引」をクリック

HOME > 銘柄検索 > 現物取引 > **信用取引** > 保有残高 > 入出金 > お客様情報 > 投資信託 > 定時定額

HOME > 信用取引 > 取引 > 口座開設 [口座開設方法 → 重要事項確認 → 受付]

口座開設 -口座開設方法-

選べる2種類の信用取引

※ご利用はいずれかの口座になります。お申込み後に弊社にて審査を行い、審査結果はログイン後のトップページの「お知らせ」へ掲載いたします。
※審査に際して、当社が必要と判断した場合はお電話またはメールにてご連絡をさせていただきます。
お客様情報をご確認のうえ、日中に必ずご連絡がつく電話番号・メールアドレスをご登録ください。

信用取引では商品性を鑑み、開閉に対し基準を設けており、基準を満たさない場合は開閉いただけません。
信用口座開設申込時の「お客様情報」の登録内容と照らし合わせて、以下項目などの審査を行っております。
必ず最新の状態で更新いただき、たとえば、申込のお手続きをいただきますようお願いいたします。

ライト信用の特徴	信用取引の特徴
・保証金率: 100%	・保証金率: 30%
・レバレッジ1倍	・レバレッジ約3.3倍
・新規売りの可否: 可能	・新規売りの可否: 可能
・取引手数料: 0円	・取引手数料: 0円
・建玉上限: 500万円	・建玉上限: 20億円

※大口口座開設基準

③開設したい口座の「申込ボタン」をクリック

ライト信用	信用取引
・建玉上限: 500万円	・建玉上限: 20億円
主な口座開設基準: ・投資経験: 投資経験不要 ・金融資産: 100万円以上	主な口座開設基準: ・投資経験: 株式等の投資経験があること ・金融資産: 300万円以上
ライト信用取引口座の特徴はこちら	信用取引口座のルール・取引概要はこちら

ライト信用は、「信用取引」とは異なり、まずはリスクを抑えて試してみたい方「現物取引」で同じ銘柄を繰り返し注文しようとした際に発注できなかった経験がある方※「少額からまずは信用取引を試してみたい方」などにオススメです。
※現物取引では禁止されていますが、信用取引では可能です。

ライト信用 申し込む **信用取引 申し込む**

※ライト信用をご利用後、信用取引への切り替えをご希望のお客様は、お客様情報画面内の「ライト信用」欄の「変更する」からお手続きください。

④「表示」をクリックして各書面を確認後、チェックを入れて「同意する」をクリック

ライト信用口座開設 -重要事項確認-

交付書面	閲覧状況	書面表示
株式信用取引 契約締結前交付書面および規程集	未閲覧	表示
株式信用取引 口座設定約書等	未閲覧	表示

◎事前の確認事項(信用取引)
・相場の変動によって、預けた金額以上のマイナスが発生することがあることを理解した
・30万円以上の保証金が必要であることを理解した
・追加保証金(以下、追証)の発生条件を理解した(大口引け時点で当日の下落率が20%未満の場合)
・追証解消の方法を理解した(入金または建玉の返済)
・追証未解消により、全建玉強制決済されることを理解した(コール手数料)
・追証金額および解消期日は、NEOTRADE Wのホームページで確認することを理解した
・株式分割や併合により、返済期日が前倒りになることがあることを理解した
・追証とは別で、100%割れ時の決済損等の受渡で「不足金」が発生することを理解した

※上記の確認事項は、各交付書面からの一部抜粋となります。お申込み前に必ず各交付書面の内容をご確認ください。

☐ 上記の事前確認書類の内容および「事前の確認事項」を熟読し、その内容に同意します。

戻る **同意する**



ライト信用で経験を積んで、 通常の信用取引へのステップアップ！

① NEOTRADE W にログイン後の「お客様情報」画面を表示します

NEOTRADE W

ホーム 銘柄検索 現物取引 信用取引 保有残高 入出金 お客様情報 投資信託 定時定額

ご利用にはパスキーの登録が必要です

HOME > お客様情報 > 取引パスワード入力

お問合わせ ヘルプ

お客様情報 - 取引パスワード入力

お客様情報の表示には取引パスワードのご入力が必要です。

取引パスワード: 次へ

取引パスワードを失念したお客様は、下記ボタンを押下して取得の手続きを行ってください。

登録メールアドレス:

取引パスワード再取得

② 各種口座開設状況の「変更する」をクリックして申請できます

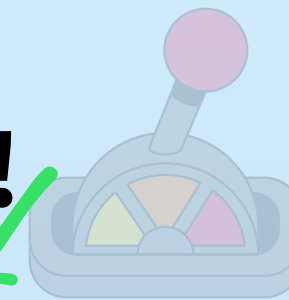
株式委託手数料プラン	一律(つどつど)プラン			変更する
各種キャンペーンの適用状況 各種キャンペーンへのご案内	口座区分	キャンペーン名称	終了日	
		適用されているキャンペーンはございません		
各種口座開設状況	口座種別	開設状況	新規開設	
	信用取引	ライト信用 変更する	-	
特定口座開設状況	2026年	2027年		
	未開設	未開設		
NISA口座開設状況	今年	来年		
	未開設	未開設		



信用取引 | どんな人におすすめ？

レバレッジ：約**3.3倍**

レバレッジを活かし、資金効率良く取引！



建玉上限金額：**20億円**

ライト信用よりもボリュームのある取引を！



信用取引の特徴を最大限活用したい方に！



「SBIネオトレード証券」で検索しご確認ください。

ホームページアドレス
<https://www.sbineotrade.jp/>

SBIネオトレード証券のWebサイトに記載されている金融商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく必要があります。また、価格の変動等により損失が生じるおそれがあるほか、商品によっては投資元本を超える損失が発生することがあります。商品毎に手数料等およびリスクは異なります。各商品の投資にかかる手数料およびリスクについては、当社Webサイトに記載の「リスクについて」または契約締結前交付書面等でご確認ください。

【信用取引に関するリスクおよび手数料等について】

- ・信用取引(以下、用語の使い分けをしていない限り、信用取引および「ライト信用取引」の両者を合わせて「信用取引」といいます。)は、株価の変動等により、元本損失を生じるおそれがあります。また、その損失の額が、差し入れた保証金額を上回るおそれがあります。
- ・信用取引に係る取引手数料は0円(無料)ですが、買方金利、貸株料、品貸料(逆日歩)、信用取引管理料、信用取引名義書換料等の諸経費が別途かかります。
- ・信用取引の委託保証金は最低30万円、取引額の30%以上(「ライト信用取引」は100%)が必要です。
- ・信用取引では、保有していない株式を借りて売却し、将来買い戻して返済する売建(空売り)が可能です。売建は、株価の値下がりを見込んで利益を得ることを目的とするため、買建とは異なるリスクがあります。株価が予想に反して上昇した場合に損失が拡大しますが、株価は上限が定められていない為、売建による損失は理論上無制限です。そのため、保証金を上回る損失が発生する可能性があり、「ライト信用取引」の場合においても、追加保証金の差し入れが必要となる場合があります。さらに、売建では株式を借りるための貸株料に加えて、需給状況により逆日歩(品貸料)が発生する可能性があり、想定以上にコストが膨らむ場合があります。売建は価格変動リスクや制度上の仕組みを十分に理解した上でご利用ください。

- ・お客様ご自身の資産状況や投資目的およびリスク許容度に照らして適切な判断のもとでお取引いただくようお願いいたします。詳細につきましては、契約締結前交付書面および信用取引のルール・概要ページ(<https://www.sbineotrade.jp/margin/outline/>)をご覧ください。

□リスクについて

<https://www.sbineotrade.jp/notes/FIEA.html>

□契約締結前交付書面

<https://www.sbineotrade.jp/stock/document/>

商号等 株式会社SBIネオトレード証券 金融商品取引業者、商品先物取引業者
登録番号 関東財務局長(金商)第8号
加入協会 日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人 日本金融サービス仲介業協会
一般社団法人 金融先物取引業協会

